

2022 年度 第 20 期

事業報告

(事業年度：令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)

2023 年 6 月

特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ

## <2022 年度概要>

2018 年から中心市街地で活動が始まった重度知的障害者の存在を街に示し共生社会について多くの人々と思考する試みが 2022 年度は本格的に始まった。文化庁「令和 4 年度障害者等による文化芸術活動推進事業」、静岡県「令和 4 年度文化芸術による地域振興事業」において、コロナ禍後、生活様式の変化の中で、ウエルビーイングの考え方を街に実装する試みをおこなった。20 年間空き地となっている松菱跡地で昨年度に引き続き行った「オン・ライン・クロスロード 2022」を他団体と協力して規模を拡大して行った。その結果、4 日間で 12000 人以上が来場いただくなど大きな反響があった。また中心市街地のステークホルダー約 30 団体の皆さんとともにに行っている「浜松ちまた会議」は、10 月に行われた青年会議所主催のピッチコンテスト「ネクスト・ローカルリーダーズ」において浜松ちまた会議が準グランプリを受賞するなど、地域の文化・芸術以外の特に産業系の方々へこうした構想を伝えることができたのは大きな成果であった。

中心市街地の紺屋町に 10 月よりオープンした「ちまた公民館」は近隣の子どもから大人まで幅広く訪れている。駐車場も駐輪場もない場所に短期間で多くの人が交差する理由は、こうした場が街にないことがある。たけし文化センター連尺町にも軽度発達障害、精神障害の人たちの問い合わせが多くあるなど「居場所」の必要性を案じる 1 年であった。

今年度初めて受託した文科省「令和 4 年度学校卒業後における障害者の学びの支援事業」においては重度障害者とそうでない人々がともに学び合うことについて様々な考察が繰り広げられた。文科省事業を通して生涯学習関係者、教育関係者との連携が始まった。

通年で行っている「タイムトラベル 100 時間ツアー」(障害のある人の日常を体験する 1 泊 2 日ツアー)、「GOGO!たけぶん探検隊!」(小学 3, 4 年生の校外学習受け入れ)、「かしたしたけし」(大学、講演等への出張)もコロナ禍を縫うように実施した。

以上の事業は、コロナ禍で微妙な状況の中でもスタッフが協力しながらあきらめず、地道に行ったことは法人の結束力を高めることにも貢献した。同時にこれらは利用者諸氏にとっても出かける機会や出会いの機会とに確実になっている。そして多くの市民に彼らの存在を通して当法人の目指す社会の一辺を知っていただく機会となった。

アルス・ノヴァの運営は今年度も新規利用者 5 名が入るなど着実に利用者が増えている。9 月に放課後等デイサービス事業がたけし文化センター連尺町内に移転し郊外とは違った利用の仕方が模索されている。懸案となっている入野の移転は物件が決まらないことで延期になっている。障害福祉事業は消防、建築の規制が厳しくなかなか適合する物件が決まらないのが実情である。ヘルパーサービス事業 ULTRA は、ヘルパーを希望する障害者に対してヘルパーの供給が間に合わない。今年度 6 人のヘルパーを迎え入れたが、ヘルパー人材の発掘が課題である。同じ法人内で日中活動を支える通所事業と生活全般を支えるヘルパー事業があることは障害者の人生そのものを地域や社会とつなげていく上で非常に良い機会となっている。一方で、浜松地域において障害のある人の生き方の選択肢がまだまだ少ないことも痛感している。3 階で行っているシェアハウス・ゲストハウスでは今年度近隣の大学生が休学しインターンとしてアルス・ノヴァに勤務しながらシェアハウスを利用した。またコロナ禍でありながらも全国から見学者が来訪しゲストハウスを利用している。同時にすでに狭小化が始まっているシェアハウス・ゲストハウスの次なる展開が必要である。

認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ理事長  
久保田翠

## (1)障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

### ①アルス・ノヴァ(連尺町)(定員20名・日中一時支援定員10名)

#### ■生活介護の利用者数

生活介護の契約者数は、16名(2023年3月31日時点、昨年度15名)、1日の平均利用数は、10.6名/日(昨年度10.8名/日)だった。特別支援学校の職場実習を延べ7名受け入れたほか、利用を検討される方の見学も都度対応している。

#### ■アルス・ノヴァの支援

アルス・ノヴァでは、利用者それぞれの興味関心、こだわり、ルーティーンを尊重して、日々の活動を支援している。例えば、文字を書くことが好きな方に紙とペンを提供したり、太鼓を叩くのが好きな方が太鼓を存分に太鼓を叩けるようにしたり、テレビゲームが好きな方にゲームができる環境を用意したり、外出が好きな方の外出にとことん付き合ったりしている。利用者本人が希望する活動が、他の利用者を不快・不安にさせることや本人の健康を大きく害すること、経済的な負担が大きい場合は、代替する活動を提案したり、活動場所を分けたりして対応している。

また、本人のやりたいことを尊重しながらも、新しい経験や社会的なつながりができるように工夫している。一つは外出することで、道中で気になる物や場所など出会い、新しい活動につながっていく。市街地の立地を活かして、活動で使用する文房具などを買いに行ったり、デパートやショッピングセンターでウィンドウショッピングを楽しんだり、コンビニやスーパー、ドラッグストア、ファストフード店で食べ物や飲み物を購入したりしている。外出も本人の興味関心に合わせて提案していて、本が好きな人と本屋に行ったり、音が好きな人とゲームセンターの音楽を聴きに行ったり、おしゃれが好きな人と100円ショップでメイク道具を買ったりしている。

もう一つは、人と関わる機会を積極的につくっている。前述の日々の外出先で出会うこともあるが、市街地で開催されるイベントに参加したり、9月からクリエイティブサポートレッツで運営しているフリースペース「ちまた公民館」に遊びに行ったりして、外部の人との関わりをつくっている。また、一般の人にアルス・ノヴァに滞在してもらう体験ツアー「タイムトラベル 100 時間ツアー」を毎月開催して、外部の人に訪れてもらうことで施設の風通しをよくしている。

#### ■健康管理

昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症対策で毎朝の健康状態チェックと定時の換気・消毒、体調不良者の隔離を行い、被害を最小限に収めるように務めた。また、利用者の運動不足解消のため、積極的に散歩に出かけ、毎週火曜日にインストラクターを読んでエアロビの時間を設けた。

#### ■教育機関との関わり

今年度も、様々な教育機関と連携して学生と交流する機会を設けた。新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら毎月1回、佐鳴台小学校の昼休みの時間に遊びに行き児童と共に過ごした。また、大平台高校とクリストファー中学の福祉系の授業、富塚中学の地域の人が講師として行う授業にも利用者と訪れ生徒と交流した。実習の受け入れもしており、浜松市立看護専門学校の看護学生5名が実習として施設に3日間滞在した。



## ②アルス・ノヴァ入野(入野町)

### 1・生活介護(定員 10 名)

実利用者数 11名、毎日平均 7 名が通所しており、放課後等児童デイサービスから大人のサービス利用に切り替えた方が1名増えた。本人の興味、課題などを共有し、これまでの過ごし方を発展させた活動を中心に、利用者と共に各職員が果敢にこれからの過ごし方を模索している。

#### ■新型コロナウイルス感染症対策

引き続き 通所時のアルコール消毒、体温測定を行い、定期的な換気消毒を実施している。限られた空間の中、マスク着用が出来ない利用者さんも多いため、積極的に屋外活動を行っている。

#### ■健康

それぞれが楽しみながら出来る運動を心がけており、アルス・ノヴァならではの発想を取り入れたお散歩やダンスなどが定着している。また、裏庭の一角を小さな菜園にし、野菜や果物などを育て始めた。毎日の水やりを行うことで植物の成長を実感し、生った成果物は一緒に調理して昼食時などに提供している。利用者さんに合わせた居場所づくりやスケジュール調整を行い、環境を整えることで心と体の健康を図っている。重ねて定期的なバイタルチェックや体重測定を行い、気になることがあればその都度記録に残し、職員同士で共有し、ご家族に伝達している。また、睡眠不足などの要因で疲れている様子があれば横になれるような場所を作るなど、本人の体調に合わせて過ごし方を柔軟に変えている。

#### ■講座

「アートインコミュニティ3」や「版画講座」を開催した。11 月頃から一部の講座は「ちまた公民館」に開催場所を移したが、引き続き「のづあ公民館」で行われる講座もある。

#### ■屋外活動、他者との繋がり

利用者さんの要望だけでなく、新しい体験や興味、才能を引き出したりなどの発展を見据えての活動を心がけている。新しく出来た「ちまた公民館」へ出向き 創作活動をしている利用者さんと交流したり、人気の遠方へのドライブ(三ヶ日にいる犬の生存を確認するドライブ)を定期的に行っている。佐鳴台小学校やたかだい放課後児童会との交流に継続的に参加することで、顔見知りが増えたことで利用者さんの参加意欲も上がった。連尺で開催される玄関ライブやエアロビなどのイベントにも引き続き参加している。入野と連尺を行き来する方もおるため、本人の特性や要望などを考慮して今後も利用者の可能性を狭めないよう柔軟な姿勢で取り組んでいきたい。



## 2・就労継続支援 B 型(定員 10 名)

### ■2022 年度の状況

2021 年から続く新型コロナウイルス感染症の影響もあり、(もちろんそれだけではないが)一部のメンバーが体調をくずすことがあった。そのため、定期的に体調や近況などメンバーと話す機会を設け、対応をした。中には利用回数を減らすといった方法をとるメンバーがあり、新型コロナ禍の状況にメンバーがそれぞれのやり方で対応していた。また、それぞれの体調や状況に応じた施設の利用方法や過ごし方、活動などをスタッフとともにつくっていった。2022 年度、1 名のメンバーがアルス・ノヴァを卒業し、パソコン作業や箱折り作業のある就労継続支援A型(以下、就労 A)の事業所へと移った。年度末頃から新型コロナに対する世の中の空気が柔らかくなってきたためか、利用日数を減らしていた一部のメンバーが少しずつ利用日数を元に戻している。今後、新型コロナ感染症に対する規制が柔らかくなった場合の支援を考えていく必要がある。

### ■ちまた公民館の利用

レッツが管理、運営する私設私営の公民館「ちまた公民館」がプレオープンを経て 2022 年 10 月からスタートした。地域にお住いの方、一般の来訪者などとともに就労 B を利用する精神障害や発達障害などのあるメンバーたちも活動場所や居場所として利用している。ちまた公民館は活発なアルス・ノヴァ連尺とは異なり、静かで落ち着いて過ごせる居場所となっている。また、講座や部活などに参加・体験したり雑談したりする活動の機会や外部の方との交流の機会が生まれている。

### ■玄関ライブ

たけし文化センター連尺町(以下、たけぶん連尺)の1階を会場に、毎月1回開催しているライブステージ。出演者と観客、障害のある人もない人が混ざる会場はライブでありながら演劇でもある。また、音楽、詩、ダンス、お笑いだけでなく「表現未満、」をざっくばらんに発表する場でもある。

・出演者(アルス・ノヴァ メンバー)／金子あつし、木の葉パレット、ジュピロ北区、タムラムラ、とびうお、むぎ、ムラキング、ももか、

・2022 年度は計 8 回(4/16 vol.21～3/15 vol.26)開催。

【2022 年】Vol.21 4.16[土]／Vol.22 6.4[土]／Vol.23 /

【2023 年】Vol.24 1.27[金]／Vol.25 2.18[土]／Vol.26

3.15[水]／



玄関ライブ YouTube

### ■メンバーの表現・活動

新型コロナ禍ではあったが、表現・活動においてメンバーたちは積極的に行った。日々の活動はもちろんのこと、外部での活動や出演の多い1年であった。これは、それぞれのメンバーが少しずつ重ねて活動してきたことが実ってきた成果と言える。また、出演後、表現・活動へのモチベーションが高まったり、自信につながっている様子も見られる。

【オン・ライン・クロスロード】

・10.22[土] 音楽ステージ「風と砂利と音」出演／羊のクロニクルズ

・10.23[日] 演劇ステージ「風と砂利とこと」出演／木村劇団

・10/30[日] 「玄関ライブ×浜松 OPEN ART」出演／金子あつし、とびうお、タムラムラ

・ワークショップ「マイ[ベッド]タウンをつくろう！ 参加／ムラキング

【外部】

・2022.5.3[火・祝] @駿府城公園(静岡県静岡市)⇒羊のクロニクルズが「ストレンジシード静岡

2022」に出演

- ・2022.6.25[土] @鴨江アートセンター(静岡県浜松市中区鴨江)⇒とびうおがライブイベントに出演
- ・2022.8.26[金] @TEHOM(静岡県浜松市中区田町)⇒タムラムラがライブイベントに出演
- ・2022.9.11[日] @Live&Lounge Vio(愛知県名古屋市中区新栄)⇒羊のクロニクルズが「最も自由な人たち Vol.9」に出演
- ・2022.11.19[日] @キタラ⇒羊のクロニクルズが「バリアフリーコンサート」に出演
- ・2023.3.4[土] @丸天ビル 3F(静岡県沼津市)⇒木村劇団が出張公演『「ロミオとジュリエット」 in 沼津』を開催

【メディア】

ウェブマガジン「こここ」

≪連載記事≫ポロリとひとこと | 妄想恋愛詩人 ムラキング

・『詩を書いている自分は自分じゃない? —妄想恋愛詩人・ムラキングの「表現」をめぐる葛藤』(2022.10.19 公開)

・『同じ場所に立とうとすることで見えてくるもの —妄想恋愛詩人・ムラキングと詩を書こう』(2023.4.17 公開)

②テレビ出演 NHK E テレ(全国)「バリバラ」

『わたしの あふれ』本放送/10/21(金)22:30-22:59 再放送/10/25(火)15:30-15:59



連載記事ウェブ

【そのほか】

・ムラキングのミニ詩集づくり 会場:ちまた公民館 不定期



NHK E テレ(全国)「バリバラ」



演劇ステージ「風と砂利とこと」出演/木村劇団



### ③アルス・ノヴァ ULTRA

#### 1・ヘルパーの人材育成と新規採用

障害のある人の文化的で自立した生活を支えることをミッションに掲げる訪問介護事業所アルス・ノヴァ ULTRA は、2020 年 9 月の開設から 3 年目を迎えた。2022 年度、アルス・ノヴァ ULTRA は、新たに 2 人の常勤スタッフと 4 人の登録ヘルパーを雇用した。2023 年 3 月時点で、5 名の常勤スタッフと 13 名の登録ヘルパーが活躍している。登録ヘルパーはそれぞれに、写真家や園芸家、小道具商、スポーツトレーナー、学生などの本業と兼業して障害のある人の生活支援に携わっている。様々なコミュニティに属する人が介助者として関わることによって——例えば、外出先として介助者自身のコミュニティを提案するというような形で——アルス・ノヴァ ULTRA のサービスを利用する当事者の顔見知りを増やし、新しいやりとりを生み、ともにコミュニティを耕すことにつながっている。また、今年度は週に一度の定例の支援会議や、登録ヘルパーとの面談に力を入れて、生活支援をチームとして担う体制づくりを行った。

#### 2・重度訪問介護 | シェアハウスを拠点にした自立生活支援

レッツの運営するたけし文化センター連尺町のシェアハウスでは、3 人の重度知的障害のある青年たちが親元を離れた暮らしを実践しており、アルス・ノヴァ ULTRA では、他の訪問介護事業所や訪問医療/看護とも連携しながら、重度訪問介護サービスの提供を通じて彼らの生活支援に携わっている。2022 年度は、さらに 2 人の青年たちが、アルス・ノヴァ ULTRA の重度訪問介護を利用して、自立生活の体験を開始した。

#### 3・新型コロナウイルスによる影響

新型コロナウイルス・オミクロン株の感染流行を背景に、2022 年 8 月から 11 月にかけて、計画外の緊急対応を行うケースが 4 件あった。その内、当事者自身の自宅療養中の支援にあたったものが 2 件。当事者の同居家族等の罹患によって、当事者と家族等の接触を避けるために緊急的に体制をつくりサービス提供を行ったものが 2 件。自宅療養中の当事者への訪問介護において、担当する介助者は、防護服の着用や、一定期間は他の方の支援現場に入らないなどの感染拡大予防策を講じ他方で、2022 年 7 月には、スタッフの新型コロナウイルス罹患による人員不足から、約 1 週間営業を縮小した。その期間、当事者には代替サービスの利用や家族による介護を依頼するほかなかった。必要に応じて小回りの効く支援体制を組むことができるヘルパーサービスの強みを実感するとともに、現状の体制の課題を認識する機会となった。

#### 4・移動支援・行動援護

アルス・ノヴァ ULTRA では移動支援・行動援護のサービス提供を通じて、外出の支援を行っている。これらはアルス・ノヴァ ULTRA が提供するサービスの 5%に満たない(重度訪問介護による外出支援は除く)。利用希望/ニーズに対して、圧倒的に休日に勤務できるヘルパーが足りていない現状がある。また、サービスを利用できることを知らない、経験がないといった潜在的なニーズもあるため、こちらから積極的に利用を提案をしていく必要がある。外出支援の強化のために、今年度アルス・ノヴァ ULTRA では「福祉有償運送事業」を開始した。これによって、ヘルパーサービスと組み合わせながら、車を使った外出を提供できるようになった。次年度は、レッツのスタッフが持ち回りで、ヘルパーに入る仕組みを考えたい。



(2)障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく一般相談支援事業  
今年度事業実施なし

(3) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業  
今年度事業実施なし

(4)児童福祉法に基づく障害児通所支援事業  
放課後等デイサービス アルス・ノヴァ(定員 10 名)

#### ■事業運営の状況

1 名が卒業し(卒業後はアルス・ノヴァ生活介護へ)、2022 年度の実利用者数は 11 名となり、毎日平均2から3名程度が通所した。ここ数年の利用者減については、今年度は半数が高校 2、3 年生で卒業を控えており、大幅な利用者減が予想されるため、新規利用者募集や相談支援への声かけなどを行なった。見学などは度々あるものの、新規利用者獲得には至っていないのが現状である。9 月には事業所を移転し、拠点を浜松の中心市街地にあるたけし文化センターとした。移転により利用が減った利用者もいたが、大きな変化としては施設環境や立地の変化により、過ごし方や想定される利用者が増えたことである。今後の新規利用者像としては、従来の重度知的だけでなく、バス通所を想定した軽度、発達障害の利用者や、街中でイベント的に遊ぶ単発利用者などに広げていく予定である。また、次年度春から小学校一年生が数名新たに利用予定となっている。法改正により多くの事業所が新規利用者受け入れが厳しくなったことの影響も考えられ、今後放課後デイサービスを取り巻く状況も変化していくとみられる。昨今の児童福祉業界の安全対策強化も受けつつも、新たな層が安全且つのびのびと遊びに邁進できる環境整備も含め新たな体制を整えていきたい。

#### ■感染症対策など

毎日の利用時検温、基本的な感染症対策などに留意しながらの運営になった。施設周辺でも感染や濃厚接触の情報が来たこともあったが幸運にも放課後等デイサービス利用者で感染者が出ることはなかった。引き続き対策を続けつつも、新型コロナウイルス感染症を取り巻く社会状況の変化に応じて柔軟に対応していきたい。

#### ■活動

感染対策に留意しつつも、施設内外でのびのびと様々な遊びを行なった。最後の年となった入野の古民家では、掃除機、都市伝説、白雪姫のビデオ、文字書き、ボール遊びなどの個々の熱い活動から、主に長期休みに行なった室外機が大好きな利用者が自らGoogleマップで調べた室外機を実際にみんなで遠くまで鑑賞しに行ったり、夏恒例の庭でのプールを楽しんだり、スイカ割りをしたりといった集団活動まで多岐にわたり、最後の夏休みを堪能した。施設移転後は、たけし文化センターの音楽スタジオで大人の利用者とも混じりつつたくさんの楽器を思いっきり演奏したり、周辺の商業施設に買い物に行ったり、街中のイベントに遊びに行ったりと環境変化による新たな過ごし方が生まれた。おやつ時間も従来は購入したスナック菓子などを提供していたが、街中という立地も生かし、マクドナルドやサイゼリヤなどにみんなで出かけておやつタイムを楽しんでいる。従来に比べ、お出かけなどで街ゆく人々や様々な属性の人と出会う機会も増え、これからも外に飛び出して、様々な機会を創出し新たな出会いや子どもたちが生き生きと楽しめる活動を生み出していければと考えている。



## (5)児童福祉法に基づく障害児相談支援事業

今年度事業実施なし

## (6)文化センター事業

### ①「ともに暮らす」事業

#### 1・ゲストハウス、シェアハウス事業

コロナ禍ではあったが、宿泊者には PCR 検査を実施してもらいながら観光ツアーやゲストハウス運営を再開した。8 月にはシェアメイトとして他県から来た青年が 1 か月ほど滞在。また静岡文化芸術大学国際学科 3 年生の学生が休学し、当法人でインターンとして働きながら 9 月～2023 年 3 月まで約半年間、シェアメイトとして障害のあるメンバーたちとの共同生活をおこなった。

#### 2・たけしと生活研究会

今年度は文部科学省の「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」を受託し、重度知的障害者の学びの場をつくることを目的にした事業を行った。近年、障害者の学校卒業後の学びの支援は急速に進んでいるが、重度知的障害者の生涯学習は進んでいないのが現状である。本事業では、社会実験(タイムトラベル 100 時間ツアー、地域の学校との協働事業、たけしと生活研究会)、リサーチ(ヒアリング、先進事例の見学)そして共生社会コンファレンス「ともにいるだけで学びになる一福祉とアートの現場から」の3つの事業を通じて、重度知的障害者の学びの支援について議論した。またコンファレンス映像は YouTube にて期間限定配信し900回近い視聴を得た。また事業成果普及パンフレットを全国1200件(手をつなぐ育成会、障害者芸術文化支援センターおよび広域センター、文化芸術施設・団体など)に配布した。

#### ■タイムトラベル 100 時間ツアーの実施～宿泊型重度障害者交流事業

重度知的障害者が活動するたけし文化センター連尺町にて、一般の滞在者を招いた 1 泊 2 日の体験型ツアーを実施。施設を利用する障害者と一般の滞在者が共にいるプログラムを実践検討した。コロナ禍により7月から計8回のツアーを開催したが、参加利用者(障害のある人)合計 241 人、滞在者合計 24 人となった。(詳細:文化センター事業参照)

#### ■地域の学校との協働事業

障害福祉施設アルス・ノヴァを利用する重度知的障害のある人が学校を訪問するプロジェクト「みにみにアルス・ノヴァ」を定期的実施した。特別なプログラムをつくらず、重度知的障害のある人と学校児童が、学校の休み時間等に、共に過ごすことで、多様な人がいる状況を日常的に作り出す実験事業を行った。8月から計9回、参加利用者(障害がある人)合計93名となった。(詳細:文化センター事業参照)

#### ■たけしと生活研究会・読書会+ラジオ

次の内容のトークを収録、ポッドキャストにて音声コンテンツとして公開した。①重度知的障害者の暮らしや街との関わりから生まれる「学び」について障害のある支援に従事する者が話し合う、②2019 年から 2021 年に行った、重度知的障害者の新しい暮らし方を研究・実践するプロジェクト「たけしと生活研究会」報告書をゲストを交えて読書会形式で読み解いた。

たけしと隣人ラジオ <https://podcasters.spotify.com/pod/show/n533g0lamu>

#### ■有識者ヒアリングの実施

プログラム開発のため、障害者の学びに関する有識者、また、アートと教育に関する有識者にヒア

リングを実施した。

- ①小川智紀(認定NPO法人STスポット横浜理事長)2022年10月14日(金)
- ②野口晃菜(一般社団法人UNIVA理事)2022年11月4日(金)
- ③伊藤達矢(東京藝術大学 社会連携センター 特任教授)2022年11月16日(水)
- ④柴崎由美子(NPO 法人エイブル・アート・ジャパン代表理事)2022年12月8日(木)
- ⑤津田英二(神戸大学 大学院人間発達環境学研究科 人間発達専攻 教授)1月10日(火)

### ■先進事例の見学調査

事業の普及や発展のために、先進事例の視察を行った。

- ①2022年11月5日(土) 超福祉の学校
- ②2023年2月5日(日) たんぽぽの家 大博覧会

### ■連携協議会の設置と検討

当法人でのいままでの知見をもとに、連携協議会、連携協議会事務局(ワーキンググループ)を設置し、意見を収集しながら、ともにいることを核とした学びの場、プログラム開発、地域課題について検討議論を行った。協議会日程:①2022年9月22日、②2022年11月25日、③2023年2月10日 | 第3回 連携協議会

### 【連携協議会構成員】

遠藤雄策(浜松市発達医療総合福祉センター副センター長)  
小松理度(ローカル・アクティビスト ヘキレキ舎 代)  
中田一会(福祉をたずねるクリエイティブマガジン「こここ」編集長)  
鈴木恵子(浜松市市民協働センター副センター長)  
久保田尚宏(浜松市健康福祉部障害保健福祉課長)  
鈴木一有(浜松市市民部創造都市・文化振興課生涯学習担当課長)  
田中真実(特定非営利活動法人 ST スポット横浜副理事長・事務局長)  
久保田翠(特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ理事長)

### ■カンファレンスの実施

重度知的障害のある人の学びを通して、広く学びの概念を問い直し考える共生社会コンファレンス「ともにいるだけで学びになるー福祉とアートの現場から」を実施した。

開催日時 2023年1月21日(土)13:30~18:30

会場 浜松市福祉交流センターホール

参加者数 現地:87名/オンライン配信:114名(申込数 | 現地:92名/配信:252名)

キートーク①「アートとインクルージョン ~他者を認め合うアート~」日比野克彦(アーティスト/東京藝術大学学長) キートーク②「学びとは何か?/"障害者の学び"から"私たちの学び"へ」津田英二(神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授)

事例発表①わかりあわないまま、ともにいる ~障害者施設アルス・ノヴァの日常~ 高林洋臣(クリエイティブサポートレッツ)

事例発表②石と飴の在野探求家・久保田壮の活動を通じて考える ~街(ちまた)との協働(セッション)から生まれる「まなび」~ ササキユイチ(クリエイティブサポートレッツ)

事例発表③人生の交差点 ~重度知的障害者たちとのシェア生活~ 高本友子、原菜月(たけし文

化センターシェアハウス滞在者)

事例発表④「いろいろな人」の中に自分もいる～障害者施設と学校の協働による学び～ 夏目はるな(クリエイティブサポートレッツ)

事例発表⑤アーティストが学校へ(横浜市芸術文化教育プラットフォーム) 田中真実(特定非営利活動法人 ST スポット横浜)

ラウンドテーブル「ともにいるだけで学びになる～福祉とアートの現場から～」

日比野克彦(アーティスト/東京藝術大学学長)、津田英二(神戸大学大学院人間発達環境学研究所教授)、ほか連携協議会委員

### ■事業をまとめたパンフレット・WEB ページの制作

事業成果の普及発信のためにパンフレットを制作した。効果的な普及を狙い、外部の編集/執筆者、デザイナーに制作を依頼した。共生社会コンファレンスの内容を再構成して、また事業成果普及パンフレットを全国1200件(手をつなぐ育成会、障害者芸術文化支援センターおよび広域センター、文化芸術施設・団体など)に配布した。また共生社会コンファレンスは当日にオンラインにて映像配信を行った。申し込み者の数に比して、当日の視聴者数が少なかったがアンケートにおいても、共生社会コンファレンスのアーカイブ(記録映像)配信への期待が多数寄せられたため、当日のアーカイブ(記録映像)を公開した。コンファレンス映像は YouTube にて期間限定配信し900回近い視聴を得た。



## ②浜松ちまた会議

2021 年度よりまちのステークホルダー40 団体が集まり「浜松ちまた会議」を結成した。2021 年 2 月には「まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた」と銘打ったシンポジウムを開催し、多様な人々のウェルビーイングを軸とした街づくりを提唱した。

2022 年度は文化庁と静岡県からの支援のもと、こうした考え方を浸透させるための広報を積極的におこない浜松青年会議所と経済紙「ForbesJapan」が企画した NEXT LOCAL LEADERS 浜松というピッチコンテストで浜松ちまた会議の取り組みを紹介し、準グランプリを受賞した。これによって経済紙 ForbesJapan に「街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす」として掲載され浜松ノビジネスパーソンたちとの繋がりが広がった。また10月には昨年度のシンポジウムで課題となっていた「場づくり」の実装を開始。紺屋町に地域活動支援センター化を目指した「ちまた公民館」実験事業を開始し半年で2000人以上の来館と80講座以上が開催されるなど居場所のニーズが顕在化した。2023年 2 月には街のステークホルダーやプレーヤーを集めて行われた「浜松ちまた会議2023」を開催。街づくりに福祉の視点を盛り込むことの意義や、多様な人たちがともに暮らすことの重要性が議論された。このような事業を通じて、当法人に関わる関係人口は大幅に増え、また、産業中心の浜松のまちづくりに福祉やアートといった要素が必要だという議論をステークホルダーたちと共に展開していったことは大きな意義があった。

### 1・場づくり「ちまた公民館」

浜松市中心市街地に一軒家を借り上げ、「ちまた公民館」(中区紺屋町)を実装した。ちまた公民館は近隣の小学校・中学校(浜松市立中部学園)の通学路にあり、マンションや職住併設の家屋も多い地域で、10 月の開所と同時に近隣住民の来訪も多い。同時に社会的に居場所がない人々も多く訪れる。また市民に表現の場所としても開放し、展覧会、講座、ワークショップ、大学のゼミとして活用されている。

次年度以降は福祉事業と合わせて継続していく予定である。

場所:中心市街地(浜松市紺屋町)

期間:9月~3月 月~土 10時半~19時半

体制:常駐職員 2 名

内容:講座(週 5 回 100 回)、ワークショップ(月 1 回) 市民講座(5 回、ZINE 講座(吉田朝麻)、展覧会(5 回)、大学ゼミ(週 1 回 20 回)、日常コラム作成(ライター原菜月(11 本)、クラブイベント、静大テクノフェスタ参加(11月12日)、先進事例ヒアリング:NPO たいとう歴史都市研究所現地視察(6月27日、7月27日~28日)、みなとまちづくり協議会視察

参加者数:延 2000 人

その他:ちまた公民館冊子制作 B5 判 5000部

### 2・人材の雇用と育成

フルタイムのスタッフを2名雇用。うち一名は静岡文化芸術大学国際学科の3年生の学生が休学し、インターン。シェアハウスの同居人として生活しながら、ちまた公民館の運営や「表現未満、プロジェクト」の実施、福祉事業を体験し、福祉・アート・まちづくりの事業を横断的に経験した。

期間:9月~2023年3月

### 3・ピッチコンテスト出場、街づくり談義の開催

#### ■NEXT LOCAL LEADERS 浜松

6 月予選ピッチコンテスト、10 月決勝ピッチコンテスト準優勝、『経済紙 Forbes Japan』



2023年2月号掲載)

#### ■浜松ちまた会議勉強会・見学・ヒアリング

会場視察:11月23日秋田市創造文化館視察ヒアリング(秋田)、11月24日アートNPOリンクヒアリング(東京)、11月24日アタミスタ視察ヒアリング(熱海)

#### ■浜松ちまた会議2023

2023年2月19日 事例発表6団体、ゲスト講師(山出淳也 元 BEPPUPROJECT 代表)参加者80名(限定制)

事例発表:①NU-TRIA SKATE PARK(近藤哲也)②プスプス byZING(吉田朝麻)③一般社団法人グローバル人材サポート浜松(堀永野)④新川モール(株式会社 HACK)(高林健太)⑤Town eMotion(ヤマハ発動機)／⑥株式会社 jimot(夏目記正)

#### 4・報告書の作成

■ちまた公民館冊子 5000部 浜松近隣地域に配布中、全国配布予定

■「まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた2023」10000部 全国配布予定



#### ④「表現未満、プロジェクト」

「表現未満、」とはだれかが大切にしていることを、とるに足りないことと一方的に判断しないで、その人を表している行為（「表現未満、」）として大切にしていける文化活動として 2016 年度よりスタートした。今年度は、コロナ禍後、人々の幸せの価値観が変化する中、『表現未満、』の視点を街づくりへと拡張していく事業を行った。静岡県浜松市中心市街地において、20 年間衰退の象徴である松菱百貨店跡地において、重度知的障害者の存在を核としたアートイベント「オン・ライン・クロスロード」の実施、来場者は 1.2 万人以上、関係者数は 200 人を超え、多様な人々と協働してアートイベントを開催した。また共生社会を担う人材育成プログラムの開発、一連の事業をわかりやすく伝えるためのメディアの開発、交流事業などをおこなった。

##### 1・「オン・ライン・クロスロード2023」

浜松市中心市街地にある広大な空き地・松菱跡地(1400 坪)を使って、多様な人たちが交差する「オン・ライン・クロスロード」を昨年度に引き続き実施した。昨年度よりも大幅に規模を拡大させ、延べ 200 名の市民が主体となって事業を行った。1400 坪の敷地に重度知的障害者を核としながら、だれもがくつろぎ、遊ぶことができる、クラブ、コンサート、演劇、マルシェ、スケートボードパーク、BMX、アートイベント(スリーピングバットプロジェクト:アーティスト深澤孝史監修)をつくり出した。4 日間で 1 万 2000 人を超える来訪者があり、大盛況であった。また、重度知的障害者が核となり、衰退の象徴であった当敷地に 20 年ぶりとなる賑わいの場をつくり出し、コロナ禍後初となる大規模イベントを、多くの市民の協力を仰ぎながら行えたことは大きな意義があった。

期間:2022 年 10 月 22 日、23 日、29 日、30 日

会場名:松菱百貨店跡地(浜松市中心市街地)

関係者:200 名

来場人数:12,000 人(うち 29 日は 5000 人以上)

Mingle Village+クラブ・アルス(8 ステージ)、風と砂利と音(4 ステージ)、風と砂利とこと(演劇ステージ:静岡県舞台芸術劇場(SPAC)とのコラボ企画、3 ステージ)、玄関ライブ×浜松 OPEN ART(市民参加ステージ:15 ステージ)、Sleeping City Project(深澤孝史(アーティスト)+市民 20 名参加)、NU-TRIA(BMX/スケートボードパーク)(5 団体)、マルシェ(40 団体)、浜松古本市(10 団体)、飛び込みアーティスト多数

##### 2・公開講座と人材育成プログラムの開発

共生社会実現のための公開講座と、人材育成プログラムの開発を行った。全国でネットワークを構築している団体、メディアと協働で企画会議を行った。現在当法人で行っている「タイムトラベル 100 時間ツアー」やシェアハウス、ゲストハウス利用者にヒアリング等を行い、ターゲットの絞り込み、講座講師の選定、運営方法などを検討した。

開発期間:2022 年 5 月~2023 年 2 月

企画会議:打ち合わせ(東京 5 月 19 日~20 日、東京 7 月 27 日~28 日、東京 11 月 5 日)、月1程度 MTG

ワークショップ:8 月 23 日、8 月 27 日:西川勝

企画会議メンバー:マガジンハウス、ウェブマガジンここ編集部、ソーシャルワーカーズラボ

##### 3・交流事業

コロナ禍で実現が難しかった、小、中、高、大学を対象とした交流事業(GOGO!たけぶん探検隊!、かしたしだけし、みにみにアルス・ノヴァ)や、たけし文化センター連尺町に 1 泊 2 日宿泊する「タイ

ムトラベル 100 時間ツアー」を今年度は PCR 検査や感染対策を工夫し再開した。

■タイムトラベル 100 時間ツアー(5 月～3 月 9 回)

重度知的障害者が活動するたけし文化センター連尺町にて、一般の滞在者を招いた 1 泊 2 日の体験型ツアーを実施。※コロナ禍の影響も考慮して 7 月より実施を開始した。

各回の日程および参加滞在者

- ①2022 年 7 月 15 日～16 日 参加滞在者 3 名
- ②2022 年 8 月 19 日～20 日 参加滞在者 8 名
- ③2022 年 9 月 16 日～17 日 参加滞在者 4 名
- ④2022 年 10 月 21 日～22 日 参加滞在者 1 名
- ⑤2022 年 11 月 18 日～19 日 参加滞在者 1 名
- ⑥2022 年 12 月 16 日～17 日 参加滞在者 1 名
- ⑦2023 年 1 月 20 日～21 日 参加滞在者 1 名
- ⑧2023 年 2 月 17 日～18 日 参加滞在者 5 名

■GOGO!たけぶん探検隊!

令和4年度は、追分小の1校が 7 月に「GOGO!たけぶん探検隊!」を実施。3年生2クラス約 80 名の児童が交互にたけし文化センターを探検した。この学校の場合、担当教諭が前任校にて当事業を体験しており、次に着任した追分小で再度企画して下さった。

当事業がなかなか広がらないため、各学校に事業の説明のため足を運んでいるが、管理職が変わるたびに再度説明が必要で限界を感じていたというなかで、先生方の異動とともに実施校が増えるという例があることは新たな発見であった。

秋には学校関係者に向けたパンフレット「いってみよう!であってみよう!～いろいろな人がいる場を活用した学習プログラム」を制作し、市内全域の小学校・中学校に配布した。

■かしたたけし

コロナ禍ではあったが、クリストファー中・大学、富塚中学校、静岡大学に利用者と共に参加したり、授賞式にヘルパーと利用者と共に参加した。

5月27日(金)静岡県文化奨励授賞式に参加

聖隷クリストファー大学講義:2022年7月29日、11月25日、2023年1月22日、23日、

静岡大学講義:11月29日、12月6日、12月13日

富塚中学校:6月16日

■みにみにアルス・ノヴァ

学校にアルス・ノヴァのメンバーが遊びにいく「みにみにアルス・ノヴァ」は、佐鳴台小では令和4年度で4年目を迎えた。毎月1回、昼休みに訪問する計画は、新型コロナウイルスの影響で数回は中止になったものの、3月までに7回実現することができた。毎回メンバーとスタッフによる給食時の校内放送も楽しんでくれているという。

また、令和4年から、中区泉小学校内にあるたかだい放課後児童会の長期休み(夏・冬・春)のイベントとしても招かれるようになった。昼休みの実施と異なり、ゆっくりと過ごせるのが特徴で、つかず離れずの関係でともに過ごすことができた。

## 各回の日程

- ①みにみにアルス・ノヴァ | たかだい放課後児童会  
2022年8月18日(木)
- ②みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
2022年9月13日(火)
- ③みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
2022年10月4日(火)
- ④みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
2022年11月8日(火)  
参加利用者 9名
- ⑤みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
2022年12月13日(火)
- ⑥みにみにアルス・ノヴァ | たかだい放課後児童会  
2022年12月26日(月)
- ⑦みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
1月17日(火)
- ⑧みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
2月14日(火)
- ⑨みにみにアルス・ノヴァ | 佐鳴台小学校  
3月7日(火)

## 4・たけし文化センター連尺町の文化創造発信事業

たけし文化センター連尺町で多様な人たちが共に楽しむ場を創出した。

玄関ライブ(月1回)、かたりのヴァ(月1回)、ミドのヴァ(月1回)、ラジオ配信(10回)

イベント会場としての場所の提供お行った。

SPAC おやこ学校 in たけぶん(6月2日)、ミャンマー音楽研究発表会(2023年2月24日)

## 5・「表現未満、」メディア開発

本年度より本格化したリアルタイムでのアートイベントを、参加しなかった人々にも体感していただける映像編集を専門家に依頼して行った。特に本事業で行った「オン・ライン・クロスロード」やちまた会議、文化創造発信拠点「たけし文化センター連尺町」で行われている、玄関ライブ(毎月1回)、クラブ・アルス(年3回程度)で行われている障害のある人を含めた多様な人々が一堂に会し、文化を通して交流する姿を映像として配信した。またメディア開発に関しては京都大学のメディア研究者が興味を持ち会議が京都で行われた。こうしたコンテンツをより多くの人々に伝えるために、また法人のHPを整備してこれらの情報にアクセスできるように専門家とともに改良を行った。ウェブサイト全般を見直しホーム画面やその他サイトの改変、マルチデバイス対応へと大きく変更した。(実装4月予定)。

期間:2022年5月~2023年3月

京都会議(1月25日 大学教授5名参加)

定例メディアMTG:月2~4(瀬下翔太・太田知之・株式会社NOKIOO)



#### 6・表現未満、リサーチ事業

2019 年から続く「表現未満、」リサーチプロジェクトは昨年度までアートプロジェクト評価の指標づくりや研究調査を行ってきた。しかし、今年度は研究者にヒアリングをし、スタッフのコミュニケーションツールの一貫として評価を行うという方向にシフトすることになった。具体的には、福祉の現場から生まれる様々な出来事やアートの要素をどうスタッフ間で共有しアートプロジェクトにまで落とし込むか、というコミュニケーションツールを、既存の現場の支援記録を研究者たちとともに次年度以降開発する予定である。

期間:2022 年 7 月～2023 年 12 月

ヒアリング:(九州大学教授、ワシントン大学教授 6 月 9 日、6 月 29 日 7 月 28・29 日、12 月 2 日)

#### (7)その他、本会の目的を達成するのに必要な事業

今年度事業実施なし

## ■2022年度出演・登壇

### 2022年

- ・5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝)ストリートシアターフェス「ストレンジシード静岡 2022」に羊のクロニクルズが出演@静岡市
- ・5月27日(金)静岡県文化奨励賞を代表久保田が受賞
- ・6月3日(金)k-mix ラジオに羊のクロニクルズが出演
- ・6月9日(木)中京大学講義代表久保田ゲスト出演
- ・6月13日(月)「福祉探求ラジオ」にスタッフ佐々木が出演
- ・6月16日(木)富塚中学校社会人講師としてレッツメンバーが講義
- ・6月19日(日)浜松青年会議所主催ピッチコンテスト NEXT LOCAL LEADERS 浜松に久保田瑛出場
- ・6月22日(水)福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』ムラキングのポロリとひとこと Vol.3
- ・6月27日(月)一般社団法人ベンチ主催「これからのアートマネージャーの仕事」に代表久保田が登壇
- ・7月6日(水)福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』健康で文化的な最低限度の生活ってなんだろう? vol.01
- ・7月9日(土)福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』人生の「答え」は見つからないけれど「問い」は見つかるはず。〈クリエイティブサポートレッツ〉主催の観光事業「タイムトラベル 100 時間ツアー」開催
- ・7月29日(金)聖隷クリストファー大学講演
- ・9月3日(土)鳥取大学地域学部アートで感じるインクルージョン・ダイバーシティ(オンライン)講座久保田出演
- ・9月17日(土)障害学会第19回大会シンポジウム「障害者権利条約と知的障害者の脱施設化」テーマ「障害者権利条約と知的障害者の脱施設化」代表久保田登壇
- ・9月11日(日)最も自由な人たち vol.9～東海・北陸のミュージックブリュット! 個性派パフォーマーが大集合! ~に羊のクロニクルズが出演@名古屋市
- ・10月13日(木)立教大学院 21 世紀社会デザイン研究科「コミュニティデザイン学演習22 文化政策論2」講義
- ・10月15日(日)浜松青年会議所主催ピッチコンテスト NEXT LOCAL LEADER 浜松に久保田瑛最終選考出場
- ・10月19日(水)福祉をたずねるクリエイティブマガジン『こここ』ムラキングのポロリとひとこと Vol.4
- ・10月21日(金)テレビ出演 NHK E テレ(全国)「バリバラ」『わたしの あふれ』本放送/10/21(金)22:30-22:59 再放送/10/25(火)15:30-15:59
- ・11月5日(土)NPO 法人ピープルデザイン研究所×文部科学省障害者学習支援推進室「超福祉の学校@渋谷」代表久保田登壇
- ・11月9日(水)ニューコモン商会ラジオ久保田瑛出演
- ・11月12日(土)静岡大学テクノフェスタ狩野愛ゼミラジオに杉田、久保田瑛出演
- ・11月24日(木)秋田市文化創造館「カタルバー」久保田瑛が出演
- ・11月27日(日)スマイルフェスタはままつ@ソラモにレッツブースが参加
- ・11月29日(火)静岡大学地域創造学環 授業「NPO・ボランティア論」代表久保田とレッツメンバーが参加
- ・12月3日(日)「スタ☆タン!! みな☆スタ!!」@宮崎に高林が審査員出演
- ・12月10日(土)HAPS 主催「もぞもぞする現場-芸術と障害にかかわるひとたちの、ネットワー

クブくりのためのアセンブリー」に竹内が出演

- ・12月6日(火)静岡大学地域創造学環 授業「NPO・ボランティア論」代表久保田とレッツメンバーが参加
- ・12月13日(火)静岡大学地域創造学環 授業「NPO・ボランティア論」代表久保田とレッツメンバーが参加
- ・12/17(木) 障害がある人の暮らしを考えるイベント実行委員会「いろいろな暮らし」トークイベント
- ・12月19日(月)オンライン・ミーティング「映像から考える ableism[健常主義]研究」にて「週間あるす・のヴぁ(YouTube)」の分析報告会開催

## 2023年

- ・1月23(月) 聖隷クリストファー大学看護学部「生活福祉文化論」講義
- ・1月25日(水)「映像から考える ableism[健常主義]研究」にて「週間あるす・のヴぁ(YouTube)」の分析報告会に代表久保田参加
- ・2月5日(日)シンポジウム「アートは進化、深化する | たんぽぽの家大博覧会シンポジウムに代表久保田が登壇
- ・2月18日(土) にじメディア上映イベントトークセッション No.12 代表久保田登壇
- ・4月17日(月)福祉をたずねるクリエイティブマガジン『ここ』ムラキングのポロリとひとこと Vol.5

## ■2022年度メディア掲載

### 2022年

- ・2022年4月号『むすぶをつなぐ社会福祉しずおか』～『ともに生きる』地域共生社会の実現に向けて～まとまりきらないほど人生はいい 代表久保田インタビュー掲載
- ・4月20日静岡新聞「仲間広がる情報紙に 市民団体が編集会議」浜松ちまた会議
- ・5月28日静岡新聞「1団体2個人表彰 県文化奨励賞」
- ・5月29日中日新聞「浜松の NPO 代表ら県文化奨励賞を受賞」
- ・7月13日静岡新聞「県文化奨励賞を受賞したアートプロデューサー久保田翠さん」
- ・10月18日中日新聞「障害を越えて交流 松菱跡地イベント」
- ・10月20日静岡新聞「松菱跡地 多彩な舞台に 浜松の NPO と文化庁 22, 23, 29, 30にイベント」
- ・10月21日朝日新聞「浜松「松菱」跡地 自由に遊んで あすからイベント」
- ・10月23日静岡新聞「松菱跡地にベッドインチ 新たな街の在り方提示」
- ・10月24日静岡新聞「浜松・松菱跡地 SPAC 野外劇 回文でユーモラスに」
- ・11月1日静岡新聞「スケボー親しみ松菱跡地に活気 体験、実演イベント」
- ・10月28日中日新聞「障害者も健常者も気ままに過ごそう 中区でイベント」
- ・11月18日中日新聞「誰でも歓迎 私設公民館」
- ・11月25日静岡新聞「誰もが集える「公民館」開所」
- ・2023年2月号特集『ForbesJAPAN』「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」が傑出した若者を発掘 山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす」

**2023年**

- ・1月17日朝日新聞「障害者・関わる人の学びは 21日浜松でカンファレンス」
- ・1月26日静岡新聞「心の垣根超えるアートの力紹介」
- ・1月19日中日新聞「重度障害者の学びの場 考えよう 21日、中区で講演会」
- ・2月21日中日新聞「誰もが幸せな「街中」探る 市内6団体、中区で活性化議論」
- ・2月2日中日新聞「自分だけの「すごい」知る」中区・佐鳴台小でワークショップ
- ・令和5年度森村学園中等部国語入学試験問題に『ただ、そこにいる人たち』が出題

浜松 西 飛田 飛田

令和4年(2022年)10月23日(日曜日) 西 地域西 (20)



**松菱跡地にヘッドベンチ**  
野分(づ)で新たな街の在り方提示  
浜松市中区野分の松菱跡地に、地元企業や市民らによる「ヘッドベンチ」が設置された。ベンチには、地域の歴史や文化に関する情報が記載されている。また、ベンチのデザインも地域の特色を反映している。このヘッドベンチは、地域の活性化や観光促進に貢献するだけでなく、市民の憩いの場としても活用される見込みだ。

浜松 西 飛田 飛田

(17) 地域西 西 令和4年(2022年)10月24日(月曜日)



**浜松・松菱跡地 SPA 野外劇**  
回文でユーモラスに  
浜松市中区野分の松菱跡地に、地元企業や市民らによる「SPA 野外劇」が上演された。回文を使ったユーモラスな演出が特徴で、観客を魅了した。また、野外劇ならではの自然との一体感が好評だった。このSPA 野外劇は、地域の活性化や観光促進に貢献するだけでなく、市民の憩いの場としても活用される見込みだ。

浜松 西 飛田 飛田

令和4年(2022年)11月1日(火曜日) 西 地域西 (20)



**スケボー親しみ 松菱跡地に活気**  
松菱跡地に活気  
浜松市中区野分の松菱跡地に、地元企業や市民らによる「スケボー」が設置された。スケボーは、地域の活性化や観光促進に貢献するだけでなく、市民の憩いの場としても活用される見込みだ。また、スケボーのデザインも地域の特色を反映している。

浜松 西 飛田 飛田

(21) 地域西 西 令和4年(2022年)11月25日(金曜日)



**中区の認定NPO 初イベントにぎわう**  
誰もが集える「公民館」開所  
中区の認定NPOが、初イベントを開催し、地域の活性化や観光促進に貢献するだけでなく、市民の憩いの場としても活用される見込みだ。また、初イベントのデザインも地域の特色を反映している。

浜松 西 飛田 飛田

2022年(令和4年)11月18日(金曜日) [14]

**誰でも歓迎 私設公民館**

**浜松市民**

まちなか工作読書自由にとぞ

NPO法人運営 あす縁日開催

「どんな人でも立ち回れる場を作りたい」と語る公民館  
「あす縁日」は、地域の活性化や観光促進に貢献するだけでなく、市民の憩いの場としても活用される見込みだ。また、「あす縁日」のデザインも地域の特色を反映している。



# When Local Cities Change

## 「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」が傑出した若者を発掘 山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす

2023年11月18日 浜松市山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。



地方都市にイノベーションを巻き起こす。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。



「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」の受賞者たち。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「NEXT LOCAL LEADERS 浜松」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

2023年(令和5年)2月21日(火曜日) [14]



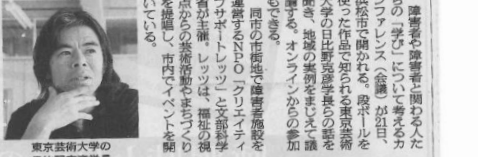
「誰かが幸せな「街中」を探る」の取材の様子。山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。

# 誰かが幸せな「街中」を探る

「誰かが幸せな「街中」を探る」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

2023年(令和5年)1月17日(火) 13版S 22

## 障害者・関わる人の学びは



東京武術大学の日比野孝彦学長

「誰かが幸せな「街中」を探る」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

「誰かが幸せな「街中」を探る」は、山側と街側の両側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。山側と街側から地方都市にイノベーションを巻き起こす。NEXT LOCAL LEADERS 浜松。

松莖跡地で歩こう！遊ぼう！

# オンラインクロスロード 2022

会場 松莖跡地

2022.10.22(土) 23(日) 29(土) 30(日)

24(月)~28(金) 18時開場・開演していますが、会場内は自由に入れます。オンライン参加は11月15日まで

参加費 無料

文部科学省「令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」

## ともに いるだけで 学びになる

～福祉とアートの現場から～

参加無料

日時 | 2023年1月21日(土) 13:30～18:30  
会場 | 浜松市福祉交流センター ホール  
(静岡県浜松市中区成木町140-8)  
定員 | 280名 + オンライン配信 **ともに芸術家申込**

声が出たり、体が動いたりしてしまう方もお気軽にお越しください。  
学びとは何か？何のために学ぶのか？どうやって学ぶのか？

日比野克彦

津田英二

共に学び、生きる 共生社会コンファレンス

# いっしょに！ であいしょ！

いろいろな人がいる場を活用した学習プログラム

認定 NPO 法人クリエイティブサポートレッツ

今現在、あなたが立っている地点、そこが現場であり、ローカルであり、出逢いの場

# 福祉を 考えたら、 まちづくり にたどり ついた

編

## ともに いるだけで 学びになる

～福祉とアートの現場から～

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ

DJ: Shihhh AISEI

ライブハウス

2023.1.14(sat)  
18:00～21:00  
FREE EVENT

# ちまた公民館 オープン!!

あいでるじかん/月ようび-水ようび 10:30～18:00  
金ようび、土ようび 10:30～19:30  
やすみの日/日ようび、しゅうじつ、さいじつ

じゃうしょ/はままつしなかくこうやまち 217-30 (こうやまち交差点すぐ)

人が集まる交差点

# ちまた公民館 Magazine

浜松のまちなかに  
私設公民館ができました!

回解!ちまた公民館  
ライターの滞在記  
スタッフ・実習生インタビュー

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ